

第三回館山市議会议定例会議録（第四号）



一、昭和五十五年九月二十六日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
三番 綱島 憲治	四番 横溝 功
五番 福原 勤	七番 古賀 礼四郎
八番 石井 昌治	九番 松下 正己
一番 林 豊	一二番 栗原 一雄
一三番 近藤 好雄	一四番 渡辺 昭夫
一五番 伊藤 幸太郎	一六番 押元 稔
一八番 流山 源次郎	一九番 石井 輝久
二〇番 石井 武敏	二一番 吉田 勇治郎
二二番 藤田 益治	二三番 菊井 敏博
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安澤 徳順	二九番 安西 益男
一、欠席議員 二名	
一七番 黒川 平治	三〇番 山口 康

一、出席説明員  
第一号に同じ

一、出席事務局職員  
第一号に同じ

一、議事日程（第四号）

昭和五十五年九月二十六日午前十時開議

議案第五十三号 館山市附属機関設置条例の一部を改

日程第一

議案第五十七号

正する条例の制定について  
昭和五十五年度館山市一般会計補正  
予算（第二号）

議案第五十四号

館山市松岡地区土地改良事業分担金  
徴収条例の制定について

議案第五十五号

館山市市営住宅の設置及び管理に關  
する条例の一部を改正する条例の制  
定について

日程第二

議案第五十六号

市道路線の認定及び廃止について

議案第五十八号

昭和五十五年度館山市国民宿舍事業  
特別会計補正予算（第一号）

認定第一号

昭和五十四年度館山市一般会計歳入  
歳出決算の認定について

認定第二号

昭和五十四年度館山市国民健康保険  
特別会計歳入歳出決算の認定につ  
いて

認定第三号

昭和五十四年度館山市と畜場特別会  
計歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和五十四年度館山市国民宿舍特別  
会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和五十四年度館山市ユースホステ  
ル特別会計歳入歳出決算の認定につ  
いて

認定第六号

昭和五十四年度館山市学童災害共済  
事業特別会計歳入歳出決算の認定に

つゝ

認定第 七号 昭和五十四年度館山市水道事業特別

会計収支決算の認定について

日程第四 議案第五十九号 館山市教育委員会委員の任命につい

て

日程第五 議案第六十号 館山市教育委員会委員の任命につい

て

## 開

議 午前十時二十八分開議

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十六名、これより第三回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

## 議案の配付

○議長（五十嵐 昇君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

## 議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、議案第五十三号及び議案第五十七号の各議案を一括して議題といたします。

## 総務委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各議案は、去る九月十八日の本会議において総務委員会に付託されたものであ

ります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長藤田益治君御登壇願います。

（総務委員会委員長藤田益治君登壇）

○総務委員会委員長（藤田益治君） 去る九月十八日開会の本会議におきまして、本総務委員会に付託されました一般議案一件、補正予算一件について、翌九月十九日総務委員会を招集し、全員出席のもとに各議案の審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重な審査の結果につきまして、それぞれ全員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第五十三号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてであります。水産業改良普及職員はどこに勤めている方で、すでに決定しているのか、または選考にあたってはどのような方法で行うか尋ねましたところ、

水産事務所に勤務しております、本条例承認後委嘱したい。

なお今回お願いする関係金融機関の役職員一人については信漁連から適当な人を推薦してもらい、委嘱したい。一方、水産業改良普及職員一人については県の水産部等と相談して委嘱したいとの考えが示されました。

さらに、今回指定された新沿岸漁業構造改善事業は今回限りのものか、また水産振興審議会は市長の諮問機関であるが、この事業を煮詰めるまでの方向について、どのように取りまとめたい

か伺いましたところ、

四年間を期間として指定を受けたもので今回限りであるが、この事業が終った段階で、また新たな事業ができるように思う。実施事業の取りまとめについては、市内の五つの漁業協同組合から実施希望事業を出してもらい、組合長間相互である程度話し合いを行い、詰めた段階でこの審議会に諮っていききたい旨の答弁がありました。

次に、議案第五十七号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算（第二号）についてであります。歳入十一款県支出金中水田利用再編対策転換水田整備事業補助金と米消費拡大総合対策費補助金の内容について説明を求めましたところ、

水田利用再編対策転換水田整備事業補助金については、中里地区で増額になった分七万七千円、松岡地区で増額分六百三十五万円、水岡地区の減額分二百八十六万六千円、坂足地区の減額分百十二万三千円これが相殺されて二百四十九万八千円の増額となった。米消費拡大総合対策費補助金については、県から米の消費拡大について総合的な対策として各市町村で積極的に行ってもらいたいというもので講演会、講習会、研究会、試食会、学校給食の普及推進、消費拡大に対する推進協議会の開催等を行うための補助金であると説明がありました。

そこで、生産調整が厳しくなっている今日、市の行政サイドではどのような考えでこれらの補助事業を選択されるか伺いましたところ、

事業の選択については、その地域地域により状況が異なるのでその地域の希望により、市はどの事業にあてはまるかということ

を検討し、県に上げていくようにしている。そこでその地域にあった事業を進めていく。さらに市の方向としては乾田化対策は国の方針に従って進めていくべきであると考えている。それがひいては館山市の農業に役立つことだとの説明がありました。

また、農政相談員の資質の向上を図らなければならない。地域のニーズというものも取り入れていかなければならない。したがって、農家の後継者の結婚問題や専業農家のめんどろをみるような具体的な方法を考えていただくよう要望がなされましたところ、日本の農業そのものが構造的な弱点を持っている。その意味で館山市もその基本的な問題を抱えている。今後は専業農家を育成していく必要があると思う。また育てていきたいとの考えが示されました。

次に、二款総務費中諸費の税外収入還付金の内容について説明を求めましたところ、

決算において、受け入れ額と実際に支出した金額に対する補助率を計算すると差異が出てくる。その精算に伴う返還金で、主なものとしては老人医療費負担金三百五十八万八千円、生活保護費二百七十八万七千円であるとの説明がありました。

次に、税収入還付金及び還付加算金の内容について説明を求めましたところ、

東京電力が石油の値上げにより昨年度中間申告で法人税割り七百七十一万九千円を納めてあったが、今回の確定申告でゼロになり、当初の額に不足を生じたので今回百万補正した旨の答弁がありました。

次に、二款総務費三項戸籍住民基本台帳費八節報償費中料理講

習会講師謝礼が計上されているが、社教でやるべきではないかとの質疑に対し、

米の消費拡大のための対策費が一本できているため、経理上この中に入れた方が適切であるということとここに計上した。実際の事業は社教で行うとの答弁がありました。

次に、国勢調査員報酬が計上されているが、調査員の数、報酬の内容について説明を求めましたところ、

本市の調査区の設定三百十八、うち無人区が三区で、三百十五区が調査の対象、調査員三百十五名、報酬は一調査員当たり三万円、世帯の多い調査区については三千九百円程度加算、二十調査区分計上した旨の説明がありました。

次に、臨時家庭奉仕員賃金が計上されているが、現在ホームヘルパーは何人いるか、またその数で十分かどうかについて伺いましたところ、

現在一般家庭にまいているのは正職員であり四名いる。臨時職のうち一名は当初予算でお願いしてあるが、もう一名必要になり、今回六カ月分十九万二千円を計上したとの答弁がありました。

次に、三芳水道企業団負担金について、負担金が減額されるのは喜ばしいことであるが、経費の算出はどのようにされているか尋ねましたところ、

三芳水道企業団への負担金は、発足当時館山市が十分の七、富浦町が十分の二、三芳村が十分の一という負担割合だったが、その後給水量の比率の変化や、給水人口の変化により、当初の分担割合を変更する必要があるということで、現在、企業債の償還分については当初の割合で算出しているが、その他の経費について

は給水割りによって三市町村の分担割合を決めている。今年度の負担金の関係については過去一年の給水量により館山が五六・三％、富浦二五・三％、三芳が一八・四％であるが、水道料金の値上げにより負担金の七千七百万を三千万減らしたため、当市の負担金も減額になった。館山市の企業債割り百八十三万一千三百円、給水割り三千二百七十七万九千六百円、負担合計三千四百六十一万八千円で、当初予算は五千百六十七万八千円計上してあったので、その差額を今回補正したとの答弁がなされ、さらに過去一年間の給水量は、全体では百八万七千トン、館山市が六十一万三千トン、五六・三％。富浦町は二十七万四千トン、二五・三％。三芳村では二十万トン、一八・四％であると、あわせて説明がありました。

次に、六款農林水産業費十三節委託料中松岡地区埋蔵文化財発掘調査委託料が計上されているが、基盤整備事業を行うと必ずこういう問題が出てくるように思うが、事業に支障はないか、所見を伺いましたところ、

松岡地区は文化財の埋蔵が予測され、文化財保護法に基づき調査を行わなければならないことになっている。できるだけ当事者と連絡を密にして調査を進めていきたいとの考え方が示されました。

次に、館山駅周辺市街地整備調査委託料について、どのような考え方から、どこに委託するか質問しましたところ、

まだ委託はしていない。駅前開発については科学的な合理性を持つた調査を行い、必要性をデータの明らかにしたい。必要性があるかということを検討するよりも、科学的にデータ的に実証

する。成田の例を見ると、事業認可までに五年経過した経緯がある。館山市の場合も調査に二、三年かかると思われるので、事業着手はその調査を経てからでないと何とも言えない。委託先は建設コンサルタントであり、その中で市街地整備、再開発事業、区画整理を手がけたこともあるしかるべきコンサルタントに委託する方向で検討しており、地元の皆さんの意見等を把握しながら計画をつくっていきたい。調査完了と同時に地元の合意もなされて事業も進むという基本的姿勢でいかなければならない旨の答弁がありました。

次に、館山幼稚園用地購入費であります。この内容について説明を求めましたところ、

現在の敷地であり、面積は六百七平方メートルの県有地で、評価が一平米当たり二万五千円で、千五百二十九万六千円となるが、すでに幼稚園として公共用地に使用しているので、二分の一の七百六十四万八千円県の方からこれだけ支払えということであるとの説明がありました。

以上、本委員会に付託されました議案二件について総務委員会における審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。総務委員会委員長報告といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

討

論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇を願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の五十七号館山市一般会計補正予算につきまして、反対の討論をいたします。

歳入歳出それぞれ三億九千九十二万円を追加する補正予算であります。この補正予算は歳入で見ますと、前年度繰越金三億九千四百四十八万六千円を主な財源として、歳出面では財政調整基金への二億七千九百五十一万二千円を積み立てることを最大の支出としているわけであり。要するに前年度繰越金を財政調整基金に積み立てることが最大の眼目となっているわけであり。ところで、道路の舗装、整備の際あるいは消防の施設の整備などの際に、市では寄付金ということと言っているわけであり。が、住民の立場から言えば事実上の負担金が現実集められているわけであり。市民の税外負担は解消されていません。

また、市民生活をめぐる緊急の課題は山積しています。固定資産税や国民健康保険税が高過ぎる。もっと安くならないか。ごみの手数料を無料にしてみたい。あるいは市民センターの使用料が営業用の使用はいざ知らず、一般市民の使用にしては高過ぎる。街灯が少ない。暗くて危険な道が多いなどやるべき課題が多くあります。何のために使われるのかはっきりしない積み立てをする金があるならば、もっとやってもらいたいことが幾らでもあるわけであり。

こうした立場から、この補正予算個々には賛成すべき施策があ

るわけでございますが、この補正予算の基調は、市民生活優先とは舊いがたいと考えるわけであります。よって、この補正予算に反対をいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 一番議員の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決をいたします。

採決は分割して行います。まず、議案第五十三号について採決いたします。議案第五十三号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第五十三号を委員長の報告どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって、議案第五十三号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第五十七号について起立により採決いたします。議案第五十七号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第五十七号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって、議案第五

十七号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、議案第五十四号ないし議案第五十六号及び議案第五十八号の各議案を一括して議題といたします。

## 建設経済委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各議案は、去る九月十八日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君御登壇願います。

（建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇）

○建設経済委員会委員長（流山源次郎君） 去る九月十八日の本会議において建設経済委員会に付託されました議案第五十四号ないし第五十五号及び議案第五十六号並びに議案第五十八号につきましては、九月十九日午後二時委員会を開会し、各案件について慎重審議の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

以下、審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

まず、議案第五十四号館山市松岡地区土地改良事業分担金徴収条例の制定についてから質疑に入り、主なる質疑応答は次のとおりです。この事業の総額は幾らか、分担金の総額は市長が定める



とあるが、具体的な説明を求めましたところ、

五千九百九万円の総額と、国が五〇％、県二五％、市が一〇％補助することになり、残りが分担金総額である旨の回答あり、全員原案に賛成いたしました。

議案第五十五号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたしました。

入居資格の拡大は喜ばしいが、受け入れ対策については単身者の場合、一戸当たりの面積二十九平米以下で、該当する住宅は大賀、笠名に九十一戸あり、これらに空きが生じた場合入居資格が出るとの答えに、別扱いにするのかとの再質問に対しては、単身者でも入居資格ができたということであり、特別に考えるということではない。他の申し込み者と同じように審査する旨の回答を得て、全員原案可決すべきものと決しました。

議案第五十六号市道路線の認定及び廃止については、場所の説明を受け、全員可決すべきものと決しました。

議案第五十八号昭和五十五年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第一号）につき、応答内容を説明いたします。

特例的収入の補正として、未収金一億九千五百五十万円を減額するものであるが、企業債については二億五百万円全額減額されているが、この差額は何かとの問いに、

企業債については五十五年度借り入れということで未収金として計上したが、五十四年度中に全額借り入れをしたので今回減額するものである。なお、五十四年度中に一般会計から五百万円繰り入れを予定したが、企業債の前借りにより資金に余裕ができたので、五十五年度に繰り入れを行ったため未収金として五百万円

を計上した関係である旨の答弁あり。

資本的支出の補正として二百十一万が計上されているが、補正財源として引継金が充当されているが、この内容をただしましたところ、

本来であれば、資本的収入を財源とするものであるが、今回は一般会計から繰り入れて前年度未収金として計上してある五百万円の中から充当するものであるとの答弁あり。

さらに、貸借対照表について詳細な質疑を行い、全員原案を可決すべきものと賛成いたしました。

以上、審査の概要を御報告申し上げましたが、いずれも原案どおり可決すべきものと結論に達しましたので、ここに建設経済委員長報告といたしました。

なにとぞ、満場の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告による討論はありませんでした。討論はございませんか。

——討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

採

決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。採決は一括し

て行います。

議案第五十四号ないし議案第五十六号及び議案第五十八号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって、議案第五十四号ないし議案第五十六号及び議案第五十八号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第三、認定第一号ないし第七号昭和五十四年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

### 決算審査特別委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各会計決算はともに去る九月十八日の本会議において特別委員会を設置し付託されたものであります。

よって、これより本決算に対し、決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員長流山源次郎君御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長流山源次郎君登壇）

○決算審査特別委員会委員長（流山源次郎君） 認定第一号ないし認定第七号昭和五十四年度各会計決算にかかる決算審査特別委員

会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。去る九月十八日の本会議におきまして、本委員会に付託されました決算につき、九月二十二日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

本決算につきましては、すでに監査委員によりまして計数の正確性、予算執行状況の適否等総合的な監査が実施され、その結果計数は正確であり、予算の執行はおおむね所期の目的に沿い、適法かつ効率的になされている旨の決算審査意見書が付されておるところであります。本委員会としては議会の立場より付託の趣旨を体しまして審査を行いました。

審査にあたっては、提出された説明資料に基づき、市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主な点について御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出第二款総務費中住民意識調査委託料が支出されておりますが、この調査の内容の説明を求めましたところ、

館山青年会議所に委託をし、昭和五十四年五月一日現在で住民登録されている満二十歳以上の市民から千名を抽出して、二十一項目について住民の意識調査を行ったものであり、市民意識調査報告書に取りまとめ、五百部を作成して市内の官公庁、各町内会長、学校等に配付したとの説明がありました。

さらに、住民意識の動向については広報、市民相談室においてまた各課の業務遂行の際に、その把握に努めておられるとのこと

であるが、なお一層の努力をされるよう要望いたしました。

次に、財産管理費において多額の需用費が市庁舎浄化槽改修工事請負費に流用されておりますが、三月に補正できなかったのか、この経緯について説明を求めたところ、

この件については、浄化槽の点検、維持管理について委託をした環境保全公社から、三月の初めに改修の必要があるとの指摘を受け、期間的に補正予算に間に合わなかったので、光熱水費の節減分を充当したとの説明があり、事情については了解できるが、予算議決の趣旨を体し、さらに執行にあたって十分検討するよう要望いたしました。

次に、防災対策費に関連して、最近、防災に対する関心が高まり、また本市の施策についても充実してきているように思われるが、さらに地域ごとの防災を図る必要があるのではないかとこの指摘に対し、

現在、地域コミュニティの推進を図る中で、自主防災というところで地域ごとに取り組んでいたが、市の施策と相まって完全な形にしていきたいとの答弁があり、重ねて個人の防災意識を高めて、地域への指導徹底を図るよう要望いたしました。

次に、第三款民生費でありますが、福祉作業所の職員の賃金、勤務内容については、所長月額七千八百円、補助指導員月額三千百円であり、月曜から金曜までの九時から四時まで勤務しているとの説明を受け、賃金が少ないと思うが是正する考えはないか、ただししましたところ、五十五年度において若干アップしたとの回答がありました。

福祉作業所の成果については十分評価するが、このような人た

ちの善意の上に成り立っているという点を十分認識し、賃金等についてもさらに検討されるよう要望しました。

また、福祉作業所の入所者の状況等についても質疑がなされ、それに対して現在九名入所しており、その他在宅の方で若干入所希望者があるが、適当な通所方法がなく、通所可能な方についてだけ応じている。今後養護学校等の卒業生が入所し、増員される見通しである。なお、精薄者を対象とした作業は在宅でも行えるが、一緒になって生活指導とともに共同して作業をしていくという考え方をしているので、在宅での作業は考えていないとの回答がありました。

次に、国民年金事務費に関連して、特例納付の最終年度ということで市当局も努力されたと思うが、その結果について説明を求めましたところ、

百五十名の無年金者のうち三十五名の解消が図られたとの回答がありました。

次に、館山市の公立、私立保育園の定数、入所率、保母数等について説明を求め、公立、私立保育園の比較がなされましたが、公立保育園は六園、定数四百八十名に対し入所者三百八十四名、入所率八〇％であり、私立保育園は五園、定数三百六十名に対し入所者三百二十七名、入所率九〇・八％との説明がありました。公立と私立における入所率の差については、私立の場合は比較的市街地に多く、公立の場合は中央保育園を除いて農村地帯に多いということ、また地域の職業的な問題、幼稚園との関係等理由として挙げられました。

次に、第四款衛生費についてでありますが、環境保全公社出資

金について、市からは出資金として支出されており、財産に関する調書に出資による権利として掲載されているが、受け入れ側の保全公社では寄付金として受け入れ、年度ごとに処理されているように聞くが、問題はないかたまたまのところ、

保全公社発足にあたっては市から百万円を寄付したのみで、車両の購入等すべて借入金によった経緯から、この借入金相当額に達するまで支出しているもので、基本的には出資と考えているが、保全公社が財団法人であり、出資金は適当でないということから五十五年度より出捐金に改めた。なお、この処理については検討中であるとの回答がありました。

次に、第六款農林水産業費中自然休養村管理センター総合診断委託料が支出されておりますが、診断の内容と診断結果に基づき今後の取り組み方について伺いましたところ、

管理センターは現在農協が管理運営を行っているが、円滑な運営を図りたいということで総合診断を委託した。その結果として運営委員会の構成メンバーの再検討、支配人の位置づけの明確化センター周辺の農業開発の検討このような指摘がなされたところであり、今後この診断結果に基づき、管理主体である農協と十分協議して対策を講じていく旨の回答がありました。

次に、第七款商工費三目観光費中に北条海岸ヤシ並木に関連する費用として管理委託料、砂除去及び防風網設置工事講費、水道施設整備工事講費が支出されており、北条海岸ヤシ並木についてはこれまで本会議においてもたびたび論議されてきておるところではありますが、本委員会においても現在までに要した経費の総額、投資効果、今後の管理等について質問したところ、

五十四年度までに要した経費は一千三百九十七万七千円で、北条海岸とヤシのイメージは相当定着したものと考えており、今後引き続き美化を図っていききたい。ヤシの状態については五十三年度において岐阜大の教授に指導を受けたが、さらに暖地園芸試験場に調査を依頼しているとの説明がありました。

また、市内にもたくさんさんのヤシがあり、提供してもよいという人がいるので検討してはどうかとの意見に対し、  
補植は土地産のものが最適と思うので検討したいとの考えが示されました。

次に、第八款土木費中、本市は道路賠償責任保険に加入しておりますが、現在までにこの保険給付を受けたことはなく、また危険な箇所については整備しておるので道路の管理責任が問われるような箇所は現在のところないとの説明がありました。

次に、教育費であります。五十四年度建設された第三中学校が先般の地震により被害を受けたことにかんがみ、本委員会においても質疑がなされました。文部省に被害報告を提出したところとであるが、結論はいつ出るのか、また責任の所在、補償問題についても結論は出されると考えてよいのか、伺いましたところ、

設計、GSK工法等一切を含めて原因の究明をしてもらっており、原因が究明されれば責任も明確になる。結論が出る時期についてはまだわからないとの答弁がありました。

次に、市立図書館の図書購入先について市内、市外の業者別の説明を求めたところ、

市内業者五店で七〇％、市外業者は四店で三〇％、値引きについては市内業者三％、日本図書館協会三％、その他の書店五から

一〇号であるとの説明がありました。

次に、一般会計歳入でありますが、特別土地保有税の納税義務免除は条例に規定されていないのに行われており、地方自治の本旨に沿って条例を整備する必要があるのではないかとこの意見に対し、

特別土地保有税の納税義務免除については法律に明文化されており、しかも選択の余地の全くない内容で条例で定める必要はない。また、自治省、県の通達にもそのようにあり、条例準則にもなかった。今後この方針で行う旨の考え方が示されました。さらに、納税義務免除の内容については、五十四年度の十五件はすべて法人であり、最高は千七百七十万であるとの説明がありました。

次に、都市計画税についてありますが、本市は市内全域が都市計画区域に指定されていることから、全市から都市計画税が徴収されているが、市街化区域の土地、家屋に課税することが本来の趣旨ではないか。またその事業は市街地の整備に使用されており、税の公平の立場から問題があると思うがどうか。なお、市街化区域の線引きがされていない理由について説明を求めたところ、都市計画税の課税範囲は、都市計画法第五条によって決定された都市計画区域が原則である。なお、本市では農業振興地域の整備に関する法律による農用地区域については課税していない。また、市街化区域については、法改正の時点で、首都圏等近郊整備地帯と人口十以上の都市については線引きするが、それ以外の都市は当分の間ということで線引きが行われていないとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります。保険税の現年度分収入未済額が五・八号になっていますが、課税世帯数と収入未済の世帯数について伺いましたところ、

課税世帯は九千四百四世帯であり、過年度分、現年度分含めての収入未済の世帯は千七百七十九世帯であるとの説明がありました。

次に、ユースホテル特別会計であります。鉾山ユースホテルは全国五百六十のユースホテルの中で最も人気の高いユースホテルと聞いているが、建設後相当年数を経過しており、これが施設改善についてどう考えるか、また職員をふやす考えはないか、市の考え方をただしましたところ、

昭和三十七年に建設されたもので、かなりいたんていと考えられるが、県の建物であり、県で耐久度調査を実施するというところであるので、県による改築を期待したい。職員は常時二名、最盛期はヘルパーを六名程度雇用し運営しているが、またボランティアの奉仕も受けられ、現在のところ増員する考えはないとの答弁がありました。

その他各費目にわたって詳細に審査を行いました。

次に、討論を行い、主要な施策に関する報告によっても充実した内容がうかがわれ、適切なる執行がなされたものと認め、市当局の努力に敬意を表するとの賛成と、一般会計については市民本位の観点から種々の問題点が指摘できるし、国民健康保険特別会計については、保険税は担税力の限界を超えるものであるとの反対意見があり、

採決の結果、認定第一号及び認定第二号については賛成多数をもって、認定第三号ないし認定第七号については全員一致をもって

て、いずれも認定すべきものと決しました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げますが、満場の御賛同をたまわりますようお願いいたしまして、委員長報告を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長の報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を結びたいします。

## 討 論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 認定第一号昭和五十四年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対の討論をいたします。

五十四年度の決算は、歳入八十八億三千七百七十九万五千円、歳出八十四億七千七百三十一万一千円、差し引き三億六千七百六万四千円の黒字となっているわけですが、多くの問題点を持っています。

第一に、歳入では特別土地保有税が十五件で二千四百六十万円一件では最高千七百七十万円もの納税義務を免除していることとございます。しかも、こうした重大な問題にもかかわらず、納税義務の免除は昭和五十三年度から何ら市税条例の改正手続を経ずに行われています。このような議会を無視するやり方を適法と答

弁する半澤市長の政治姿勢を認めるわけにはまいりません。

第二に、都市計画税であります。都市計画税は都市街路、都市下水路の整備など都市計画事業に要する費用に充てるために課税することができると目的税でございます。

ところが、現実には市内全域から農振地域の農用地を除いてすべての家屋や土地が課税されています。山の中にある家屋にも、農村の地域でも都市計画税を課税するというのは道理がありません。一部の大企業には特別土地保有税の納税義務免除をしながら、都市計画税を市民から取り立てる。これは大企業優先の自民党政治のあり方そのものであります。ここに自民党の中央政治に追随する姿勢はあっても、市民生活を守るために中央に対してはきちんと言を通すという姿勢の片りんもありません。

歳出では、第三に、市長交際費の大幅な増額がありますが、その中に議員への御中元、御歳暮などが含まれていることです。金額の問題もありますが、市長が議員に公の金を使って贈りものをするなどは許されません。この点はきちんとするべきであると考えます。

第四に、環境保全公社の出資金の問題であります。五十四年度でも八百五十万円の出資金が支出されているにもかかわらず、環境保全公社ではこれを寄付金として受け入れ、収益勘定に計上されており、出資者たる市の権利は保全されていません。五十四年度残金として二千五百三十万円の出資金残高がありますが、出資者としての権利が明示されているのはわずかに百万円に過ぎません。市長は出資金が私の本意だったと、こうした点を認め、早急に検討することでありましたが、過去数年間にわたりこうし

た間違いを続けてきたわけで、こうしたことをそのまま認めることはできません。

第五に、第三中学の学校建設費についてであります。三億円余を投入して第三中学を建設したわけですが、これは耐震構造たるものが強調され、震度七に至る地震についても大丈夫だ。こういうことであります。ところが、先ごろの地震のためにただ一つ被害を生じた学校という皮肉な結果となってしまいました。この被害が生じた原因、本当に地震に強い建物であったのかどうかなど十分な検討がされなければなりません。はからずも地震によって明らかになったこの問題点について解明されるまでこの第三中学の建設に関する予算の執行の認定は保留せざるを得ません。五十四年度の決算の認定にあたり、個々には福祉作業所の建設など評価できる施策もありますが、その基調は中央追隨の政治姿勢を基調としており、市民生活優先とは言いがたいものであり、この決算の認定には反対をいたします。

次に、認定第二号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対の討論をいたします。

国保税は高過ぎる、もっと安くすべきだ。これは国保税を納めている市民の少なからぬ声であります。今年度若干の減税をしたことは、それはそれとして評価するものでありますが、またその事自身こうした市民の声のあらわれを示しているかと思えます。

現年課税分で見ても、収入未済は金額で四千百七十二万一千円調定額に対して五・八%もの収入未済となっています。課税世帯九千百四世帯に対して千百七十世帯が滞納を持っていますが、これは実に一三%という数字であります。これはもはや異常と言わ

なければなりません。高過ぎる税は公平の原則を壊してしまいます。基金を取りくずして減税に充てることを強く主張いたします。また、保険会計の中には事務費の超過負担、納税費、助産費、葬祭費など医療と関係のない費用を支出していますが、これらについては一般会計の繰り入れをして補てんをすべきことを主張をいたします。

抜本的には、国の負担金や補助金の増額、また不公正な保険税の上限の撤廃など改善を要求し、この認定第二号の国保会計の決算認定に反対をいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、通告者による討論を終わります。通告をしない議員で討論はございませんか。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） ただいまの委員長報告に賛成の討論を行います。

当年度は、特に冗費の節減に努め、財政力の弱い本市の限られた財源として重点施策によって効率よく運営されたことは市勢の伸展にきわめて必要な措置であろうと考えます。したがって、予算執行にあたってはおおむね所期の目的に沿って適法かつ効率的に運営されたことを認めるところでございます。

本市の特に遅れている社会資本の蓄積及び整備の努力は、将来の市民生活に与える福祉向上の布石として大きな役割りを果たすものと考えます。

生活関連施設については、懸案の衛生センターの建設を初め公営住宅の建設及び道路整備等の住みよい環境づくりを行ない、あわせて教育施設については幼小教育の一元化の推進を図り、さら

には中学校の統合に伴う学校及び関連施設の建設等教育の環境づくりは、人格の完成を目指す義務教育の基本をなすものであり、したがって、将来児童生徒に及ぼす教育効果はきわめて大きなものと考えます。

次に、意見として、特に歳入において市税の不納欠損額は前年対比で四九三・一％の増加となっており、もちろん個々の不納欠損の理由についてはやむを得ぬ処分と認めるところですが、財政基盤の健全化を確立するためあらゆる資料に基づいて課税客体に対し納税義務者の担税力を正確にとらえ収入を算定し、その財源を捕捉して予算に計上したものと考えます。したがって、不納欠損額の処分については特に納税の秩序を堅持するためにも綿密な調査と実態の把握に一層の努力をされ、慎重に処理されるよう強く要望いたします。

以上の理由をもって賛成いたします。

○議長（五十嵐 昇君） 他の議員諸君で討論はございませんか。

——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決をいたします。

採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、認定第一号昭和五十四年度一般会計決算について起立により採決をいたします。

認定第一号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君

の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって、認定第一号昭和五十四年度一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第二号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって、認定第二号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第三号ないし認定第七号の各特別会計決算について一括して採決をいたします。

認定第三号ないし第七号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告どおり認定することにより御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって、認定第三号ないし第七号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

## 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第四、議案第五十九号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。



議案の朗読を願います。

(書記朗読)

### 議案の内容説明

○議長(五十嵐 昇君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第五十九号館山市教育委員会委員の任命について提案理由の説明を申し上げます。

館山市教育委員会委員中、吉田政弘君がこの九月三十日をもって任期満了となりますが、同君は人格、識見ともにすぐれており教育委員として適任と考えますので、市議会の同意を得まして再任したいので、よろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長(五十嵐 昇君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

### 委員会付託の省略

○議長(五十嵐 昇君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

### 討 論

○議長(五十嵐 昇君) これより討論を行います。

○一番(神田守隆君) 館山市の教育委員会委員の任命ということで吉田政弘さんが市長から同意を求められたわけでありましてけれども、この議案に対して反対をいたします。

まず、教育委員の問題につきましては、これまでたびたび主張してきたところでありますけれども、この選出の方法この問題につきまして昨今各地で大きな話題となっているわけでありまして、教育委員の任命については住民の意向が十分反映されるようなやり方をとるべきであるということで、これまで私も主張してきたわけでありまして、今回そういうようなこれまでの主張が依然として従来と全く同じ方法に基づいて一つは提案されたということ。そして第二に、現在西岬地区の学校統合問題これは大きな問題だろうというふうに思ひますが、五十六年度に学校を統合するという、こういうような非常に無理な計画がつけられた、こういうことについてこれまでの教育委員会のあり方に重大な疑義を持っているわけでありまして、今回新たな人の選任を求めて教育行政の公正を期するようことを私としては考えるわけで、この再任の提案には反対をいたします。

○議長(五十嵐 昇君) 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

よって、討論を終わります。

### 採 決

○議長(五十嵐 昇君) これより採決いたします。

採決は起立により行います。

教育委員任命について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(五十嵐 昇君) 起立多数であります。よって、本件はこれに同意することに決しました。

### 議案の上程

○議長(五十嵐 昇君) 日程第五、議案第六十号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

### 議案の内容説明

○議長(五十嵐 昇君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第六十号館山市教育委員会委員の任命について提案理由の説明を申し上げます。

館山市教育委員会委員中、安田豊作君がこの九月三十日をもって任期満了となりますが、同君は人格、識見ともにすぐれており教育委員として適任と考えますので、市議会の同意を得まして再任したいので、よろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長(五十嵐 昇君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

### 委員会付託の省略

○議長(五十嵐 昇君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

### 討

### 論

○議長(五十嵐 昇君) これより討論を行います。

○一番(神田守隆君) 提案の説明の中に人格、識見ともにすぐれているということで提案の理由がありました。そのことについて異議を申し上げるわけではありません。

先ほど来、申し上げておりますとおり、教育委員の選任の方法の問題、この点で十分住民の意向が反映されていないという点でこれが一つは問題。

第二点としては、西岬地区の学校統合問題について、この進め方について重大な疑義を持っている。こういう点で教育委員の再任にあたっては従来と違う人を選任するべきではないか、こういうふうに考えるので、この選任には反対をいたします。

○議長(五十嵐 昇君) 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

よって、討論を終わります。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって、本件はこれに同意することに決しました。

閉 会 午前十一時三十五分閉会

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、本定例会に付議されました案件はすべて議了いたしました。

よって、これにて第三回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第五十三号ないし議案第五十八号

一、認定第一号ないし認定第七号

一、議案第五十九号、議案第六十号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 五十嵐

昇

館山市議会議員 近 藤 好

雄

館山市議会議員 押 元

稔